

## ■ 今月の特選句

2019年7月



六月の花嫁真似事のキスをして

桑田愛子

## 六月の花嫁真似事のキスをして

桑田愛子

キリスト教会での結婚式の風景だね。キスが挨拶がわりにもなる欧米と異なり、日本人は形だけのものになる。花嫁の初々しさも表現された。

猫八にまだ及ばぬか老鶯  
月城花風

## 猫八にまだ及ばぬか老鶯

月城花風

鶏や蛙、鈴虫など動物の声帯模写は、三代目、四代目ともに江戸屋猫八が上手だった。なかでも指を啜えてつくる鶯の鳴き声は十八番だったね。

五月病道理でいい句ばかり出来  
小川鈍太

## 五月病道理でいい句ばかり出来

小川鈍太

新年度の新しい環境に適応できず、大型連休明けの五月に心身の不調が出ることを五月病と呼ぶ。いつもと違う体調の方が発想が良いことも。



## 保育所の小悪魔たちの昼寝時

鈴鹿洋子

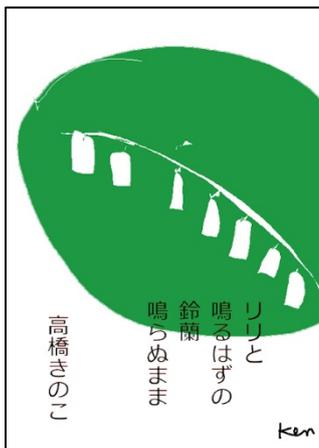
「小悪魔」がいいね。わがまま放題に騒いだり喧嘩したりの小悪魔が、いっせいに昼寝する可笑しさが伝わってくる。睡魔には勝てないものね。



## 平成と書いて修正心太

吉原瑞雲

三十年以上、「平成」と書いてきたわけだから、頭も手も、習慣的についつい平成と書いてしまう。いったん脳内を初期化して「令和」と再登録を。



## リリと鳴るはずの鈴蘭鳴らぬまま

高橋きのこ

鈴の形をしているのだから「リンリン」と鳴るという思い込みが前提の句。滑稽句は、科学や理屈を離れて思い込みをすることで生まれる。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

片陰の一人前をゆづりあふ ・・・遠慮をするな無料のものを	小林英昭
ただ石を積むだけのこと夏の山 ・・・石を積むにも上手と下手が	棕本望生
そうだそうだと思うコメント五月場所 ・・・来場所あたり相撲解説者に	山本 賜
絹の肌裾から崩し冷奴 ・・・噂話に花を咲かすか	柳 紅生
十連休五月の空の疲れ気味 ・・・凧あげですかドローンですか	細川岩男
炎上のネタのあつまる涼み台 ・・・炎上台と名前を変えよ	下嶋四万歩
郵便受けバイクの音聞き分けてる ・・・軽やかなるは吉報の時	鈴木和枝
戦せぬ国のならひや武具飾る ・・・偽物だから怖くはあらず	荒井 類
夏衣釣鐘のごと乳房揺れ ・・・釣鐘ならば厚みもあらむ	池田亮二
糶台を逃げたる蛸の行き所 ・・・忍び足にて海を目指すや	久松久子
舌禍しばしば南の島の熱帯夜 ・・・頭も口もオーバーヒート	金城正則
戦略は待つことのみので蟻地獄 ・・・ただ待つことも地獄にあらむ	稲葉純子
舟漕げば三途の川や昼寝覚 ・・・危うく渡るところで気付き	高田敏男

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

ぼうたんをみるに肘杖札所寺  
 麦秋やとなりのおとご麻疹とか  
 初蝶に遅れて老ひの歩みかな  
 熱帯夜寝ぼけまなこで鼻ほじる  
 炎天下今夜の充電ビヤガーデン  
 言い負けて黙すほかなし羽抜鳥  
 雹落ちて来て東京の豹変す  
 トンネルを潜ればハレム蚊喰鳥  
 棒振は指揮者に非ず注意せよ  
 神輿ゆく見越しの松の庭の外  
 パリ祭やパリサイ人と救世主  
 まひまひのせはしせはしとひけらかす  
 こくこくと太る夢みて茄子の花  
 梅雨寒や歩きスマホのみぎひだり  
 酷暑地獄煮ても焼いても食えぬ奴  
 葱坊主左右気ままに頭出す  
 花苗のおまけに鉢のカーネーション  
 六月の孫餅背負ひ仁王立ち  
 バンガローガンバローの朝じたく  
 カラカラとカラー枯れて空梅雨  
 マジとも恥ともげじげじの不恰好  
 回転すし去年の冷凍初鯉  
 初鯉賞味期限にあと五分  
 ニイタカヤマノボレと云はれする登山  
 時鳥ちよつとこいちよつとこいと告げてをり  
 ゆったりと世情に疎き金魚かな  
 沈黙すソーダ水を飲み止しに  
 蒙古斑見せ合ひプールサイドの子  
 想定外草笛おならの二重奏  
 売り切れて蜜豆は×(ぺけ)貼られけり  
 好物の西瓜別腹かぶりつく  
 草刈機石蹴散らして工作中  
 蝶々の大パニックやバスの中  
 ついてくる水田に映る灯かな  
 母の日や傘寿の母に吾は似て  
 紫蘭てふ花の名知らぬ友とみて  
 卓上の皿に双子のさくらんぼ  
 色とりどり梅雨を楽しむ駅前傘  
 田植の子蹴出の赤い色見せて  
 梅雨空のにびいろに溶け小舟かな

相原共良  
 相原共良  
 相原共良  
 青木輝子  
 青木輝子  
 青木輝子  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 荒井 類  
 荒井 類  
 井口夏子  
 井口夏子  
 井口夏子  
 池田亮二  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 上山美穂  
 上山美穂  
 上山美穂  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 梅野光子

花の旅終へてこけし尽くしの家  
 墨跳ねて太眉に描くこけし夏  
 青嵐母娘吹つ飛ぶ鳴子峡  
 手のひらに収めてみたき花菖蒲  
 紫陽花や人にはなれぬ子沢山  
 祭の日一期一会をいただきぬ  
 ソフトクリーム入道雲と見比べる  
 梅雨冷を温める料理にもてなさる  
 畦道を子守唄ゆく麦の秋  
 明かり窓めざし葉裏の蝸牛  
 薔薇の香や記憶の彼はピアノシモ  
 雷光に召されて天に昇らるる  
 サングラス掛けて良くなる御面相  
 チコちゃんに叱られている大鯰  
 アニサキスいるかも知れず初鯉  
 桜桃の庭の雀のよくしゃべる  
 母の日の癒しの花束処方箋  
 モナカアイス二つペロリの季節なる  
 お四国は我が故郷や遍路旅  
 ゴーグルの残せし顔の赤き円  
 風配る筍ご飯お隣へ  
 太陽の位置を誤認の夏テニス  
 鍵を持つカレーの市民緑さす  
 桑の実を潰せば舌にある躊躇  
 四迷の忌W四つと一H  
 青麦の穂は満員やガタンゴトン  
 不機嫌のコピペに溢れ梅雨湿り  
 近寄るな積荷に蟻の外資系  
 水色の風通りけり夏木立  
 春めくや鉢の金魚も揺れている  
 枝々のゆすらや風に揺れている  
 古里の思い出多しゆすらかな  
 お宝に五分の魂あり紙魚の痕  
 日焼け止め顔の老化はままならず  
 皮剥かれ筍ビッグに男前  
 新玉葱に男涙の台所  
 何時からか妻の日傘にそつと入る  
 母の日の母本日は休業日  
 奥の手を出してごきぶり飛び上がる  
 新社員「新」を外して青嵐  
 十薬やとっさの嘘は許したまへ  
 苺ジャム媚薬ひと匙加へをり  
 退屈な教授の話梅雨入かな  
 ごっつい手焼香に失敗せぬように  
 日焼けた握り拳葬儀の列

太田史彩  
 太田史彩  
 太田史彩  
 大林和代  
 大林和代  
 大林和代  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 小川鮎太  
 小川鮎太  
 門田智子  
 門田智子  
 門田智子  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 下嶋四万歩  
 下嶋四万歩  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 白井道義  
 水夢  
 水夢  
 鈴鹿洋子  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝

留守宅も時の記念日時報鳴る  
 夏場所や手形で払う相撲茶屋  
 梅雨じめり夫はテレビに子守され  
 暇乞いせず戸袋からの巢立ちかな  
 飛び込みを思いとどまる青蛙  
 老鶯や制御不能のワイヤレス  
 しゃぼんだまりングボーイをやりとげて  
 老いの身に令和の五月やつて来た  
 何よりも大好物の豆の飯  
 美人より賜はりし柏餅美味し  
 木葉木菟母と二人の五右衛門風呂  
 鶯は恋の最中よ鋏を振る  
 風船しばむ句敵の入選に  
 茹で分葱粘りがどうにも止まらない  
 文旦に顔当ておどけ男の児  
 全身打撲県道に転げた夏みかん  
 簾下げ声の透けるを忘れをり  
 からつぼの香水瓶にある想ひ  
 夏に入る何かともめる模様替  
 枝払ふ終はりし頃に夫参加  
 間一髪気付く満潮箱眼鏡  
 商談のトランプゲーム汗まみれ  
 新緑やバンジージャンプ吸い込まれ  
 麦秋やバクバク食べるピザとパン  
 底清水お金はこんな処にも  
 天道虫二つに見えて老いの波  
 手を付けてをらぬゼリーを見つめられ  
 五月晴富士の高嶺はあのあたり  
 ディズニーランド徘徊父の日の父  
 サングラスかけて白髪を黒く見る  
 七月やあつうい壁にかこまれて  
 ひとり寝の掛けて蹴飛ばす夏蒲団  
 パパイアのママはいいけどパパはいや  
 虐待も不登校もなく目高達  
 父居らぬ令和の父の日空振り三振  
 枝豆の出現にビール活気づき  
 玄關の置物となり蟬の殻  
 百千鳥なにか静ふ鳥もいて  
 新緑の青い精気を吾も欲し

高田敏男  
 高田敏男  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田村米生  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 西をさむ  
 西をさむ  
 西をさむ  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 林 桂子  
 林 桂子  
 林 桂子



口紅の暴力ハンカチの白穢す  
 花びらを断捨離したる額の花  
 上げ底とまでは言はねど枇杷の種  
 猫二匹月に吠えるや朔太郎忌  
 十葉の薬効信じ逝きにけり  
 白昼に蝮酒呑む三太夫  
 夏めいて磨きのかかる子の笑顔  
 出自など気にせず囲む泥鰌鍋  
 紫陽花と私は同じ雨女  
 龍天に昇る寿限無に始まりて  
 遠回りするが近道汗みどろ  
 リフォームもならぬ古家や梅雨湿り  
 改元を知るや知らずやなめくじり  
 一合で止まるはずなし冷し酒  
 一か月居間を警備の役武者人形  
 逆風を食らひて強し鯉のぼり  
 風五月紙ヒコーキと夢飛行  
 マネキンはシャネルづくめや夏の月  
 スパイスでどうにでもなる夏カレー  
 ゴキブリをつぶせし自慢米寿なる  
 末つ子は年中お下がり更衣  
 この娑婆へ出たがらぬ魂盆迎へ  
 芳香の薔薇に添い寝のカメラマン  
 青紫蘇の株に一枚だけの赤  
 季節感サービスするよと鳴く蛙  
 芍薬に尋ねてみたし美の秘訣  
 鯉のぼり恋は心を泳ぐなり  
 蛍狩り蛍は何処闇ばかり  
 川蜻蛉頬を撫でゆく母が生家  
 大麻てふ業火に焼かるる火蛾二つ  
 なめくじり角を揺らして命乞ひ  
 白猫の真っ赤な獲物草いきれ  
 礼状の文字のこちこち水羊羹  
 目高さんが笑っているよほらばあば  
 父の日やあの世の父に元気かと

八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 山下正純  
 山下正純  
 山下正純  
 山本 賜  
 山本 賜  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山洋子  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 渡部美香  
 和田のり子  
 和田のり子